

健幸ポイント事業等について



健康福祉部保健医療課

背景(経過)

- 平成20年度 事業スタート(交付金事業等活用)
- 平成22年度 市内全域へ拡大
- 平成23年度 単独費での事業継続(業務委託開始)



【課題】

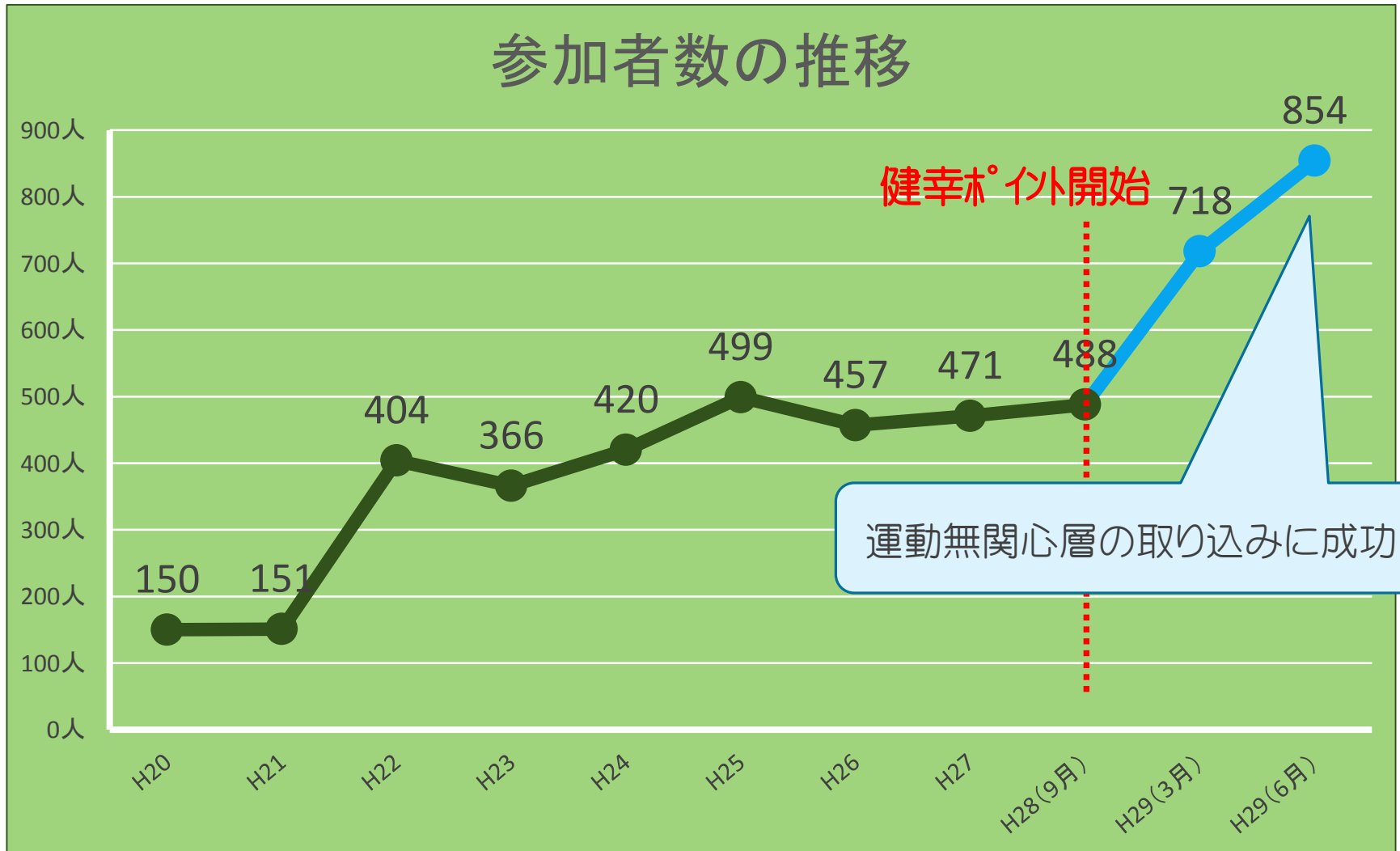
- ◆ 継続参加者のヘルスリテラシーの向上による新たなニーズの発生
- ◆ 伸び悩む事業参加者(現役世代の参加が少ない)
- ◆ 施策の評価不足



平成28年度

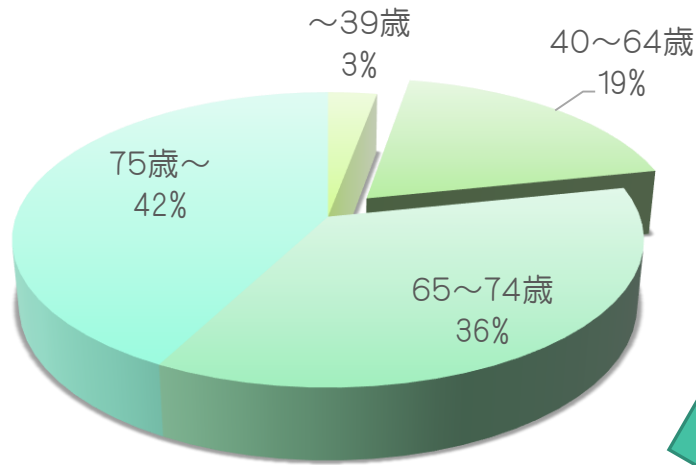
- 健幸ポイント事業スタート(運動無関心層の取り込み)
- 健幸クラウド導入(国保、介護、後期高齢、協会けんぽを含む医療情報等からの医療費分析) ※評価まで最低3年
- 筋力の維持・向上のための運動教室開始(通年)

現状(成果)



現状(成果)

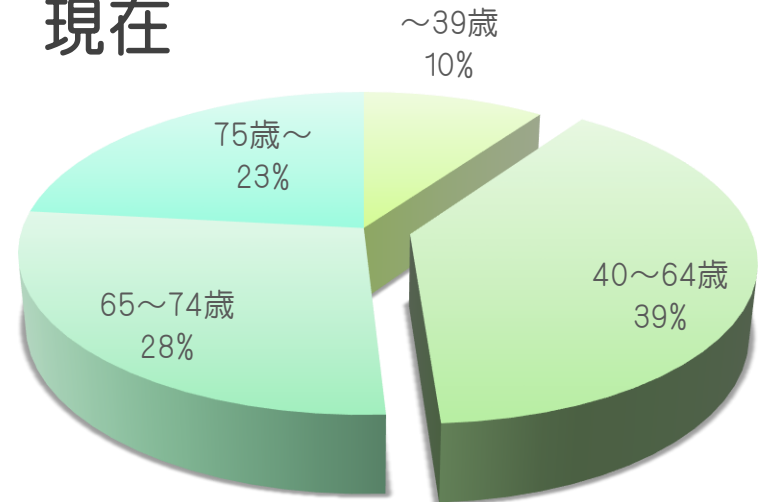
平成28年度



**ポイント事業により健康づくりに取り
組む現役世代の割合が急増**

※過去に、このような成果(若者の参加)
を上げた例はない

現在



参加事業所

- 株式会社ワイ・デー・ケー東北工場 61人
- 医療法人財団 正清会 六角牛病院 63人
- 社会福祉法人 とおの松寿会 73人
- 株式会社 栄組 35人

合計 232人

現状(成果)

事業 全般の 成果

- ① スマートウェルネスシティ自治体等の実施するポイント事業において、唯一、月額参加料（500円）を徴収し、持続可能な事業検証も兼ねた取り組みとした。
- ② 参加者のうち80.1%が無関心層で従来の健康増進事業では取り込むことのできていなかった層を取り込むことができた。
- ③ 市内全域における広報とコミュニティと協働した集客により、口コミが参加の決め手となった参加者が50.2%(208人)であった。
- ④ 事業参加後に『健康づくりへの関心が高まった』という参加者が75.7%あった。
- ⑤ 『自宅で筋力トレーニングを行うようになった』という参加者が42.3%あった。

※上記はスポーツ庁への実績報告時点(平成29年2月)の数値

高まる市民ニーズ (参加者の声)

ICT拠点会場を22カ所→11カ所に減
(健幸ポイント事業の開始に合わせて)



不満

- 近くの会場が無くなった
- 待ち時間が多い



見え始めた
利点

- 用足しついでに計測

平均20人/日が来訪



市民センター改修のため臨時会場とした「とぴあ会場」への来場者増・まち中の歩行者増

新たな人の流れ(にぎわい創出)

高まる市民ニーズ (参加者の声)

運動教室の新設 (継続重視の教室運営)

- 15分間 (3~4セット)
- 個人の都合や体力にお任せ (参加自由)
- 各地区センターの計測日に合わせて開催



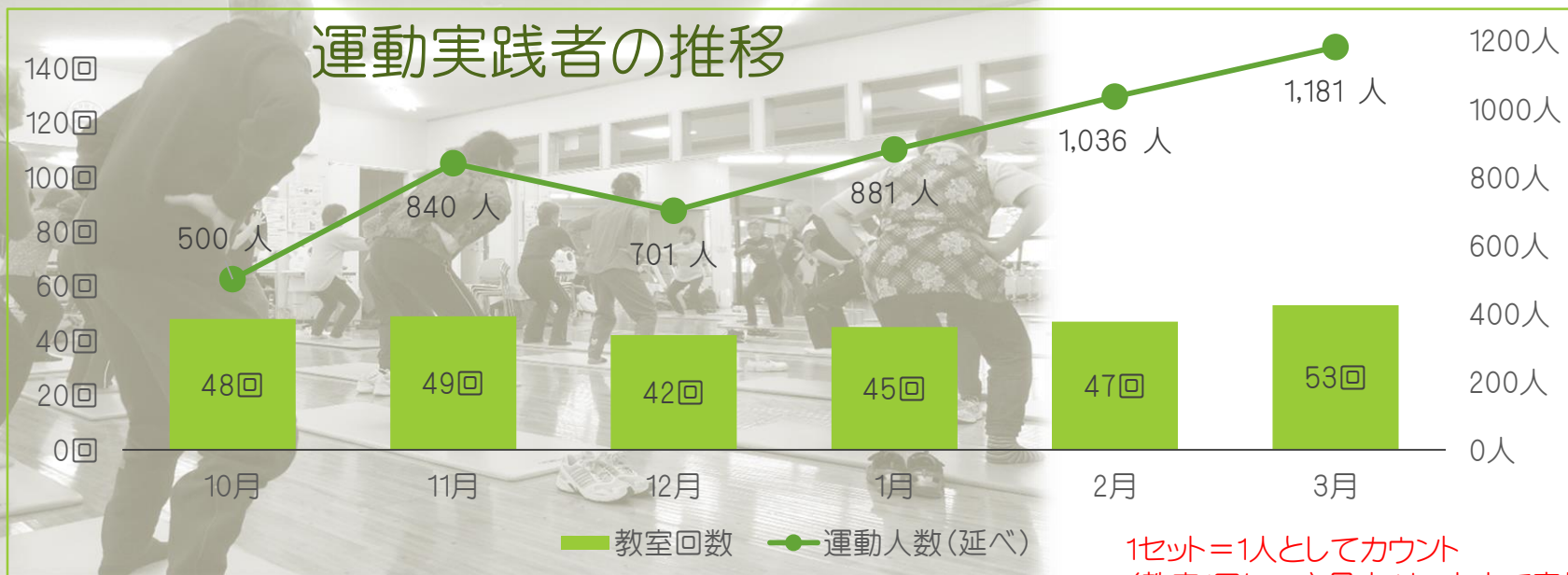
参加者に寄り添った指導
見え始めた効果

実践者の増加

- 腹筋ができるようになった
- 長時間の運動にも耐えられるようになった

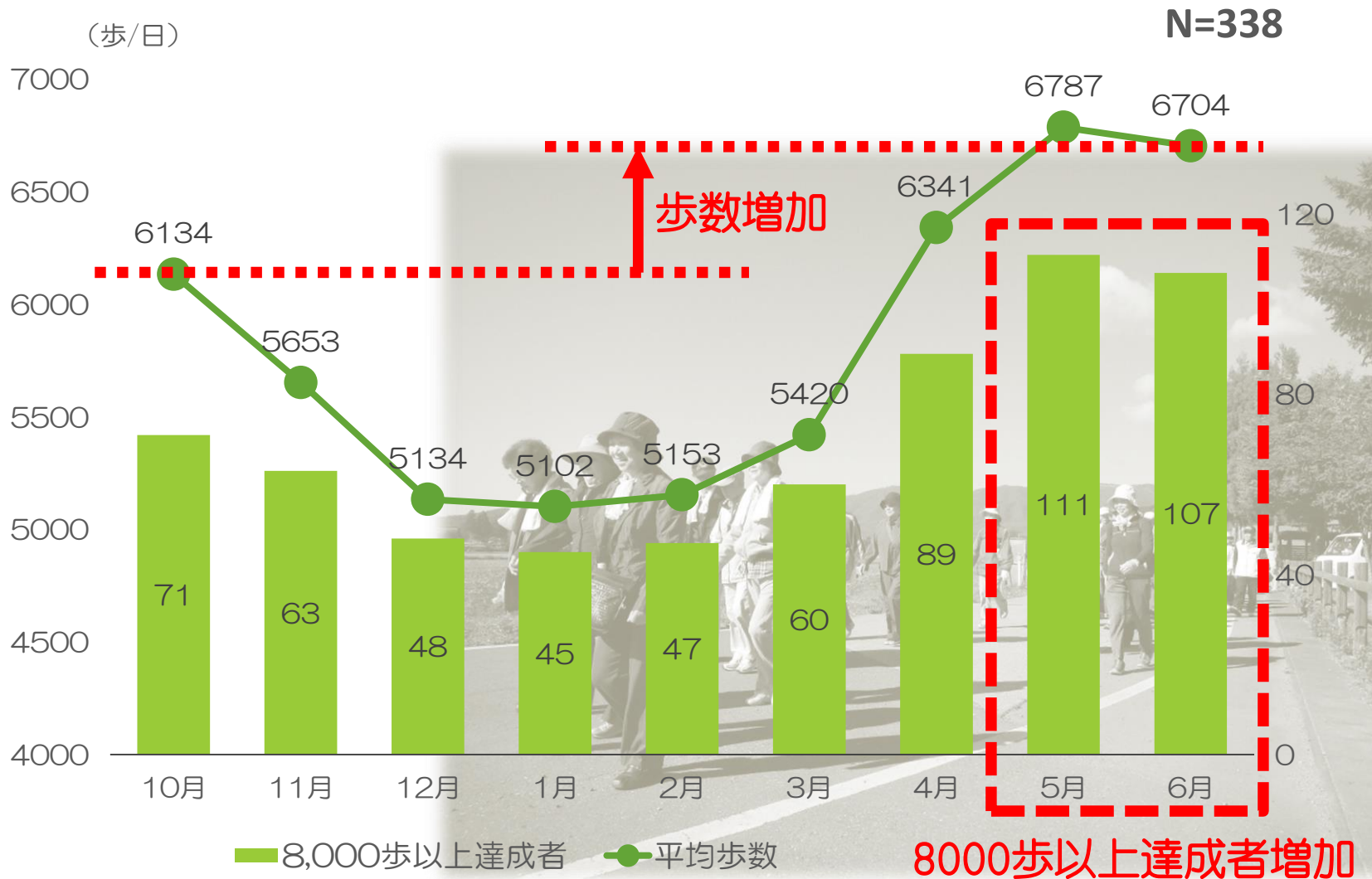


運動実践者の推移



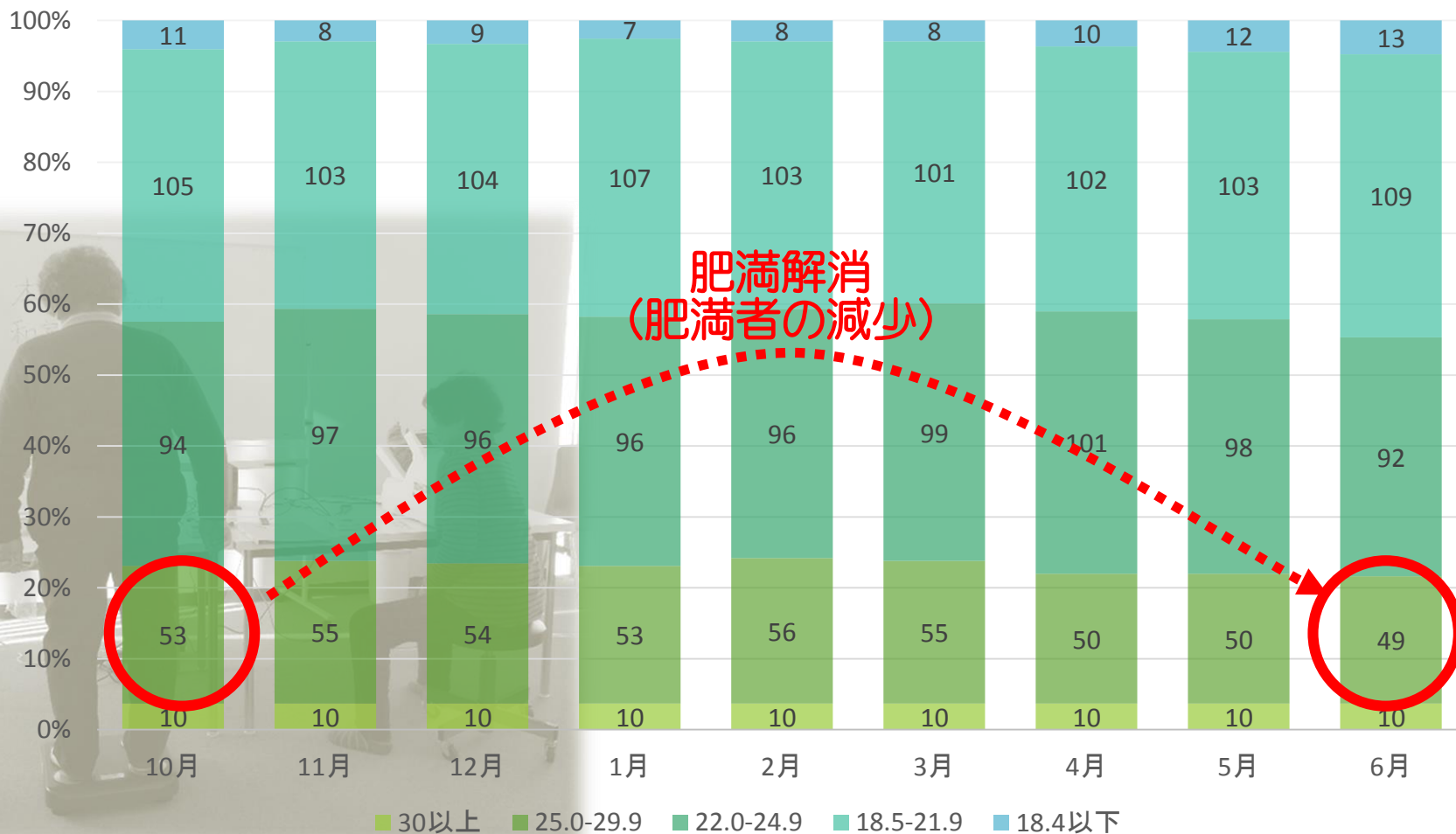
1セット=1人としてカウント
(教室1回につき最大4セットまで実施)

平均歩数の増加 (健幸ポイント導入後)



BMIの改善 (健幸ポイント導入後)

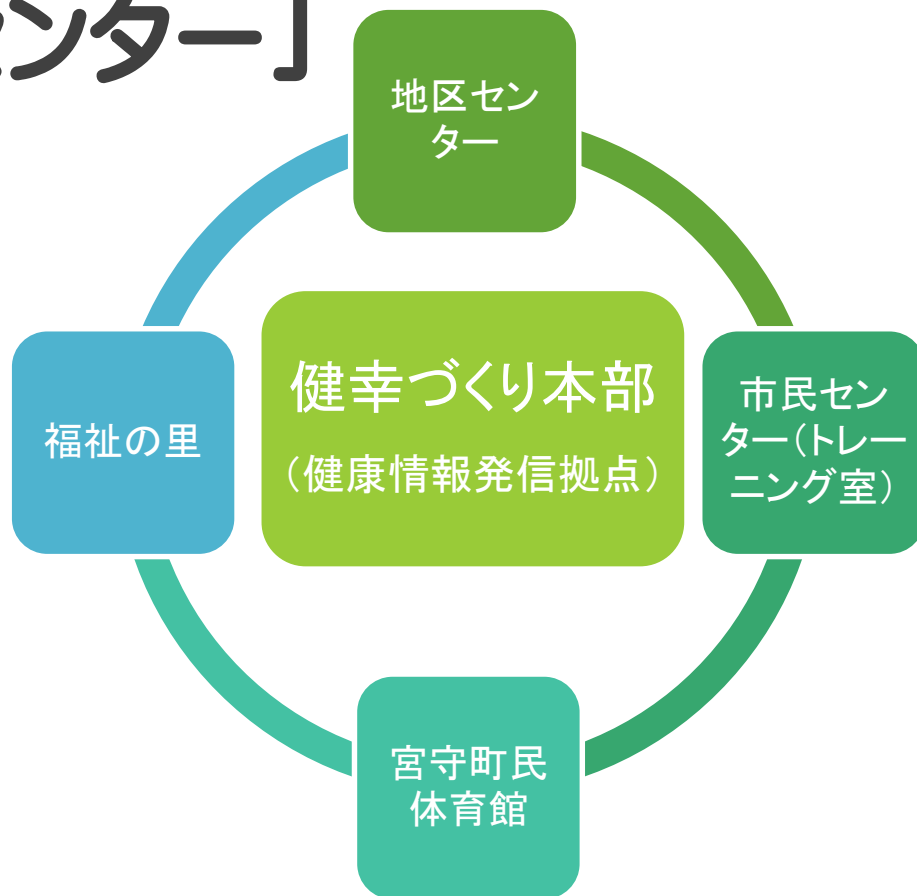
N=273



拠点づくりコンセプト

「健康づくりに取り組む 市民のサポートセンター」

- 安心 専門スタッフ駐在
- 身近 土日も対応
- 休息 心も安らぐ空間
- 発信 健康づくりに関する情報



拠点づくりコンセプト

会員特典付きの「くつろぎ」スペース

安心

専門スタッフ駐在

- ICTスタッフ事務所(里から移転)
- とぴあ計測会場
- 健康相談(平日のみ)

身近

土日も対応

- 計測サービス
- 運動教室

休息

心も安らぐ空間

- カフェ併設
- 簡易足湯

発信

健康づくりに関する情報

- 行政サービス等
(健康づくり施設)の紹介



▲ハンモックなどリ
ラクゼーション設
備



▲健康相談ブース

▶
簡易足湯

